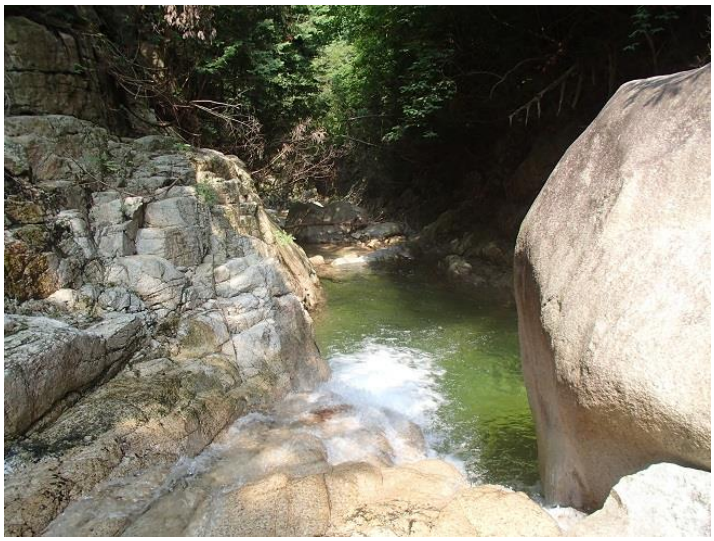
鈴鹿・元越谷　沢登り

2020年8月8日
メンバー：Ｔ野・Ｎ野・Ｔ山・Ｔ中ｍ・Ａ上

東北の癒し系の渓、大深沢の継続遡行で今年の泊り沢デビューを考えていたのだが、東北北部は梅雨が明けず、この3連休は3日間とも雨マーク！！西日本は天気が良いようなので思い切って以前から興味のあった鈴鹿の沢に転進することにした。「鈴鹿」というといかにも遠そうに感じていたが調べてみると岩手の沢よりはるかに近く、仙台の沢とそれほど変わらないことがわかり少し意外だった。

ただ、暖かい地方特有でヒルの被害が多くの記録に記されていて、それがかなり気になる。結局「マヒルのジョニー」というヒル撃退スプレーを購入してその被害に備えた。（まあ、先日の知床パーティーが真剣に備えた熊撃退スプレーと比べればハナクソ程度のかわいい悩みだが・・・）

秋葉原を21:30出発。東名から新東名を走るがトラックがやたら多く、しかも追い越し車線を悠々とトラックが走っていて、いつも走っている東北道と比べると平均速度が上がらず距離の割に時間がかかる。何とか刈谷のハイウェイオアシスまで走りここで仮眠。屋根もあってテントは不要、ただ、何しろ暑い。半端なく暑い！！東京でクーラーをかけずに寝るのと変わらないのでシュラフに入るなどもってのほか。寝苦しい一夜を過ごす。



8/8

刈谷から四日市ＩＣまでビューンと走り、コンビニで買出ししていざ鈴鹿の山へ。

元越谷の入口を間違え、さらに私の勘違いですったもんだがあって時間をロスしたが、何とか8:45に車を国道沿いにデポして出発。林道を約30分歩いて入渓。すぐに堰堤があって右岸から越えるといい感じの淵があり快適な沢歩きが始まる。渓のスケールは小さいがその割に淵が大きく花崗岩の明るい渓相は雰囲気的には南アルプスの尾白川を小さくしたような感じだ。しばらく行くと早速この渓の主、15m大滝が登場！！なかなか立派な滝だ。ここは右壁を登るが上部の傾斜が急な所には固定ロープがあって安心して登れる。その後もエメラルドグリーンの美しい淵やゴルジュ、小滝、ナメと小気味よく続き、さすが西日本屈指の人気の沢だ。難しいところもなく遡行は捗り水と戯れながらヒルのことなど忘れて気持ち良く遡行する。

■写真上　最初に現れる元越谷の主、大滝！！容易に直登できる。
■写真下　白い花崗岩とエメラルドの淵、美渓です！！

仏沢を分けると渓は小さくなるが、上部にも快適に登れる10mクラスの滝もあり本当に楽しい渓だ。最後は傾斜のない小川が緩々と続き、ちょっと日本庭園ふう。水流は最後まで途切れず、藪漕ぎもなく稜線の登山道に出ることができた。こんな渓が東京近郊にあったらきっと初級者に大人気で行列ができる渓になるだろう。

稜線をしばらく歩くと水沢峠、ここから山道を沢沿いに下降するがルートがややわかりづらく注意が必要だ。林道に出てもう安心！！と思ってもまた不鮮明になって沢沿いに迷い込み再び踏み跡を求めて歩き、いよいよ踏み跡が怪しくなると、上部に林道のガードレールらしきものが見え、そこまでひと登りすると漸く立派な林道歩きとなる。これを辿れば入渓点を経て約1時間で車をデポした国道沿いの駐車スペースに戻ることができた。下山がちょっと鬱陶しいのが難点といえば難点だがそれでもせいぜい2時間位で充分許容範囲。

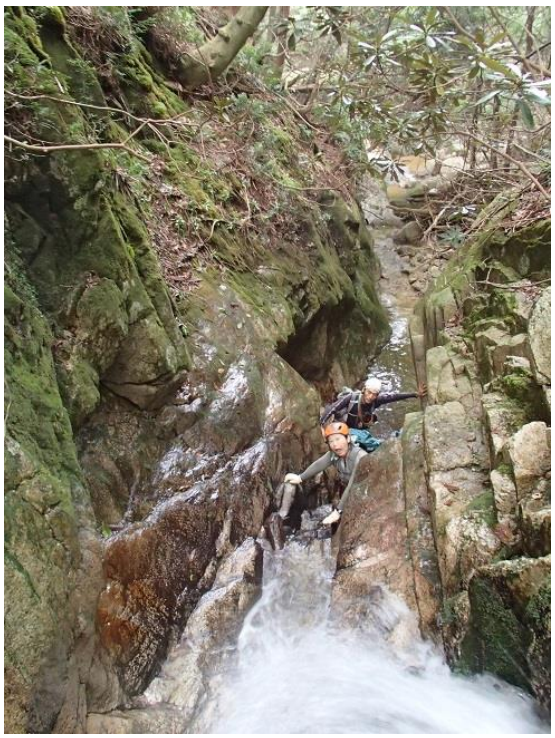
そんなことで、元越谷は、期待通りの美しく中高年にも優しい渓で、初日で寝不足ヘロヘロ状態でも充分楽しめる快適な渓でした。そうそう、当初、怯えていたヒルですが沢登りに夢中になっているうちにすっかり忘れ、下山した時にチェックしましたが、幸運にも今回、元越谷のヒルはお盆休みを取っていたようで被害はゼロ！！ラッキーでした。

また、話は全く違いますが、鈴鹿には日本で唯一のヴィアフェラータ（固定ロープで整備された岩登りが楽しめるルート）があるそうです。これ、フィールドアスレチック感覚で岩登りが楽しめて面白そうですね！！さらにマジに登りたい人は前尾根というマルチピッチルートで最高グレードで5.9程度の花崗岩の岩稜もあるそうです。それらとセットで訪れても楽しいと思います。以上、初鈴鹿情報でした。

■写真上　美しい連瀑帯
■写真中　プチゴルジュもあって楽しい！！
■写真下　変化のある渓相で飽きさせない。

さて、土地勘のない我々は、車デポ地で会った地元のパーティーにお奨めの温泉を聞きだし、湯の山温泉の希望荘という宿の温泉で汗を流し（￥600）、自炊も面倒なので四日市のイタ飯屋でお腹を満たして、今回メインの神崎川へと向かった。神崎川周辺には多くのキャンプ場があり、「多少お金がかかってもキャンプ場泊まりもいいね！！」などと思っていたが、どこもかしこも満員御礼、思いっきり「密」状態で、キャンプ場というより難民収容所という感じでこっちから願い下げ状態。業界人としては改めて最近のキャンプブームを実感した。

で、結局どうなったかというと、今日のお宿は神崎川から5分程の場所にある「道の駅　奥永源寺渓流



の里」に落ち着いた。ここも、テント不要で静かで快適だが欠点はやはり暑い！！昨日といい今日といいこれは真夏の西日本の課題だね。シュラフに入らないで寝たら虫たちにボコボコにされた。(ちなみに血が不味いＭさんとＮ野はほとんど無傷・・・「いいねぇ—血が不味い人は・・・」悔しいけど「Ｏ型・小太り・酒飲み・・・」この原則は結構な確率で当たる。

■コースタイム
国道沿いの車デポ地（8:45）～（9:40）入渓～（9:55）大滝～（13:00）稜線～（15:00）車デポ地

■写真　上部も滝が続いて楽しめる。